



東大発ベンチャーのアクセルスペースは世界でも珍しい超小型の人工衛星を手掛ける(東京都千代田区)

100億円「ファンド」本格移債

「大学発」飛躍の好機

今年度は国立大学が直接出資するベンチャーキャピタル(VC)が本格稼働する。産業競争力強化法が施行されたため、東京大学など4大学のVCが運用するファンドは合計1000億円規模。有望な大学発ベンチャーの発掘や投資・育成が可能となり、ロボット開発や再生医療などの分野で最先端技術ベンチャーの成長が加速しそうだ。政府は開業率を現在の

2倍にあたる10%台に引き上げる目標を掲げる。けん引役の1つとして期待されるのが大学発ベンチャーだ。14年は東大発のユークレナが新規株式公開(IPO)から2年で東証1部に「スピード昇格」して脚光を浴びた。大量培養したミドリムシを健康食品として販売するほか、ジェット燃料への採用も目指す。

介護・医療用の装着型ロボット「HAL」で有名サイバータウンは筑波大学発ベンチャー。昨春、東証マザーズに上場した際は公開価格の2・3倍の初値を付けた。HALの普及を踏みに進め、今も注目銘柄だ。

15年に大きく飛躍しそうな大学発ベンチャーは多い。慶応義塾大学発で人工のクモ糸繊維を開発したスパイバー(山形県鶴岡市)は25億5千万円の資金を調達し、海外メーカーと連携した研究・開発を進めている。

都大発のGLM(京都市)は電気自動車(EV)スポーツカー「トミカイラズ」の量産化を実現。来年度から生産を本格化する方針だ。

他にも超小型人工衛星を手掛ける東大発のアクセルスペース(東京・千代田)、iPS細胞を使った心筋シートを開発する京大発のアイハートジヤパン(京都市)などに注目が集まる。

大学発ベンチャーは研究成果を事業化するのに時間がかかり、民間VCに比べて資金調達に苦労する。東大や京大、東北大学、大阪大学などの各VCによる「1000億円ファンド」の投資が本格化すれば資金面の問題は緩和される。

ただ、ロボットやバイオなどの最先端分野は事業の成長性を見極めるのが難しく、投資判断の目利き力が問われる。また、大学から起業家を増やすためには、起業家教育などに力を入れて、潤沢な資金に見合うだけの投資先候補を増やす努力も必要になるだろう。

も併設した。官民ファンドの産業革新機構も14年、ベンチャーへの出資に踏み切った。眼鏡の電子商取引(ESC)サイトのオーマイグラス(東京・品川)、名刺管理のSansan(東京・渋谷)、電動車椅子メーカーのWHILL(米カリフォルニア州)といった投資先は15年の飛躍が期待される。

官の支援は手厚くなっているが、それを有効活用して成長できるのか、起業家の力も問われる。

予約の電話 自動応答

飲食店向け、確認や変更も

ベスパ

飲食店向けの予約管理システムを手掛けるVE SPER(ベスパ、東京・中央、谷口優社長)は顧客からの電話に自動応答し、予約の受付に加え、確認や変更もできるサービスを始める。2月から試験的に導入する店舗を募集する。人手不足などで電話の応対に手が回らないレストランや居酒屋などの需要を開拓する考えだ。

新サービス「みせばん」は店舗のスタッフが電話に出られない場合に自動で応答する。同社の予約管理システム「Table Solution(テーブルソリューション)」と連携しており、着信した電話の番号から予約情報を検索する。

予約がない場合は音声案内やショートメッセージ

新規予約に誘導し、予約済みの場合は予約の内容確認や変更、キャンセルができる。みせばんを試験導入する飲食店には、利用料を無料にする方針だ。

テーブルソリューションは「ぐるなび」や「食べログ」など複数の飲食店情報サイトからの予約申請を受信し、一括受

フットサルコート予約 イミオ、ネット運用開始

フットサル・サッカー用品製造などのイミオ(東京・文京、倉林啓士郎社長)はフットサルコート予約システムの運用を始めた。フットサルコート運営会社が自社サイトやイミオのサイトから利用者の予約を受け付けるようになった。ベトナムのネット予約サービス「ROOTS」経由で利用者の予約を受け付ける。

新システムはパソコン、スマートフォン、タブレット(多機能携帯端末)に対応する。施設会員の管理機能も盛り込んだ。イミオはコート運営会社から利用料(月額9千円から)などを得る。今年3月までに100施設の採用を目指す。

イミオはネット予約システムなどの新事業拡大に備え、インスパイアや個人投資家を引受先とする第三者割当増資を実施した。日本政策金融公庫の資本性ローンの融資もあわせ、総額で約1億円を調達。今後、人材の採

顧客のレストランなど数百店舗で導入実績がある。ベスパは新サービスを追加して、予約管理システムを営業時間外の対応に加え、人手不足で営業見込む。

業時間中の電話対応に手が回らない飲食店などにも売り込む。3年後に1万4000店舗でテーブルソリューションの導入を見込む。

質貸マンション情報サポーツと提携した。質貸仲

イタンジ、ヤフーと提携

賃貸仲介、無料で提供

イタンジ、ヤフーと提携

コート運営会社の自社サイトのほか、イミオのサイト「ROOTS」経由で利用者の予約を受け付ける。

新システムはパソコン、スマートフォン、タブレット(多機能携帯端末)に対応する。施設会員の管理機能も盛り込んだ。イミオはコート運営会社から利用料(月額9千円から)などを得る。今年3月までに100施設の採用を目指す。

イミオはネット予約システムなどの新事業拡大に備え、インスパイアや個人投資家を引受先とする第三者割当増資を実施した。日本政策金融公庫の資本性ローンの融資もあわせ、総額で約1億円を調達。今後、人材の採

中小・ベンチャー